

# 山形大学医学部附属病院脳神経外科

## 痙縮・機能的脳外科外来のご案内

### 痙縮（手足の筋肉の突っ張り）とは？

痙縮とは筋肉に力がいりすぎて、手足が動きにくかったり、勝手に動いてしまう状態のことです。この状態が長く続くと、動きにくいだけでなく、眠れないことや痛みの原因になり、日常生活に支障が出て、生活の質の低下につながります。

### 痙縮の症状は？

- ・手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい
- ・肘が曲がる
- ・足先が足の裏側のほうに曲がってしまう など

### 機能的脳外科外来とは？

病気あるいは後遺症としての運動機能障害や痛みなどで困っている方は多いと思います。痙縮・機能的脳神経外科外来では、脳や脊髄、末梢神経などの神経組織に対して内科的・外科的に処置を行い、患者さんの困っている症状を緩和する治療を行います。

### 機能的脳外科外来での代表的な病気、症状には下記のようなものがあります。

- ・痛み/しびれ（脳卒中後疼痛、脊髄損傷後疼痛、三叉神経痛、舌咽神経痛など）
- ・てんかん
- ・パーキンソン病
- ・顔面けいれん
- ・その他の不随意運動（ふるえ、ジストニア） など

[患者さんへ、こんな症状ありませんか？（ここをクリック！）](#)

**痙縮・機能的脳外科外来での代表的な治療法には下記のようなものがあります。**

### **痙縮の治療法**

**バクロフェン随注療法**・・・脊髄にギャバロン随注というお薬を直接作用させることで、痙縮をやわらげる方法です。薬の効果を持続させるために体内に薬剤注入ポンプを植込み、患者さん個々の状態に応じて薬の量を増減して痙縮をコントロールします。

**ボツリヌス毒素療法**・・・ボツリヌストキシンには筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用があります。そのためボツリヌストキシンを注射すると、筋肉の緊張をやわらげることができます。

**外科的療法**・・・・・・・・・・筋肉を緊張させている神経を、部分的に切断したり、神経の太さを縮小したりする手術です。

**内服薬治療**・・・・・・・・・・緊張している筋肉をゆるめる働きのある薬を服用します。

### **機能的脳外科外来の治療法**

**電気刺激療法**・・・・・・・・・・体内に神経刺激装置を植込み、神経組織に微弱な電気を流すことで痛みを緩和する方法です。  
脊髄刺激療法(SCS)、脳深部刺激療法(DBS)、大脳皮質刺激療法(MCS)

**てんかん手術**・・・・・・・・・・切除外科とは、てんかん焦点（発作が起始する部位）を切除する手術です。  
緩和外科とは、病変がびまん性であったり、焦点が不明である場合に、特に転倒・脱力発作を改善するための手術です。

**内服薬治療**・・・・・・・・・・抗てんかん薬や鎮痛補助剤などを使った治療です。

治療は、患者さんとその目的と目指すものを十分に話し合っ行っていきます。さまざまな角度から適切な治療を検討し、患者さんにとってより有効な治療を目指していきます。

山形大学医学部附属病院脳神経外科では、毎週木曜日に専門外来として、『痙縮・機能的脳外科』の診察を行っております。お困りの症例がありましたら、是非ご紹介下さい。これからも地域の先生方と連携して地域医療へ貢献していきたく思います。

お問合せ先：////////

外来予約先：山形大学医学部附属病院新患予約受付 [http://www.id.yamagata-u.ac.jp/MID/region/region\\_b.html](http://www.id.yamagata-u.ac.jp/MID/region/region_b.html)

## こんな症状ありませんか？

日々のふとした症状の中に脳神経由来の病気が隠れている場合があります。体からのサインを見逃さないでください。



手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい  
肘が曲がる  
足先が足の裏側のほうに曲がってしまう



手足のふるえ  
動作がのろくなる/遅くなる（動作緩慢）  
バランスが取りづらくなる（姿勢反射障害）



顔のびくびく、けいれん、疼痛  
自分の意志と関係なく体が動く



しびれ、激しい痛み、痛覚過敏、むずがゆい、ひりひりする、ひきつる、  
ビリビリ、チクチク、びんびん、ジンジン

少しでもこのような症状を感じたら、かかりつけの先生および山形大学医学部附属病院脳外科へご相談下さい。